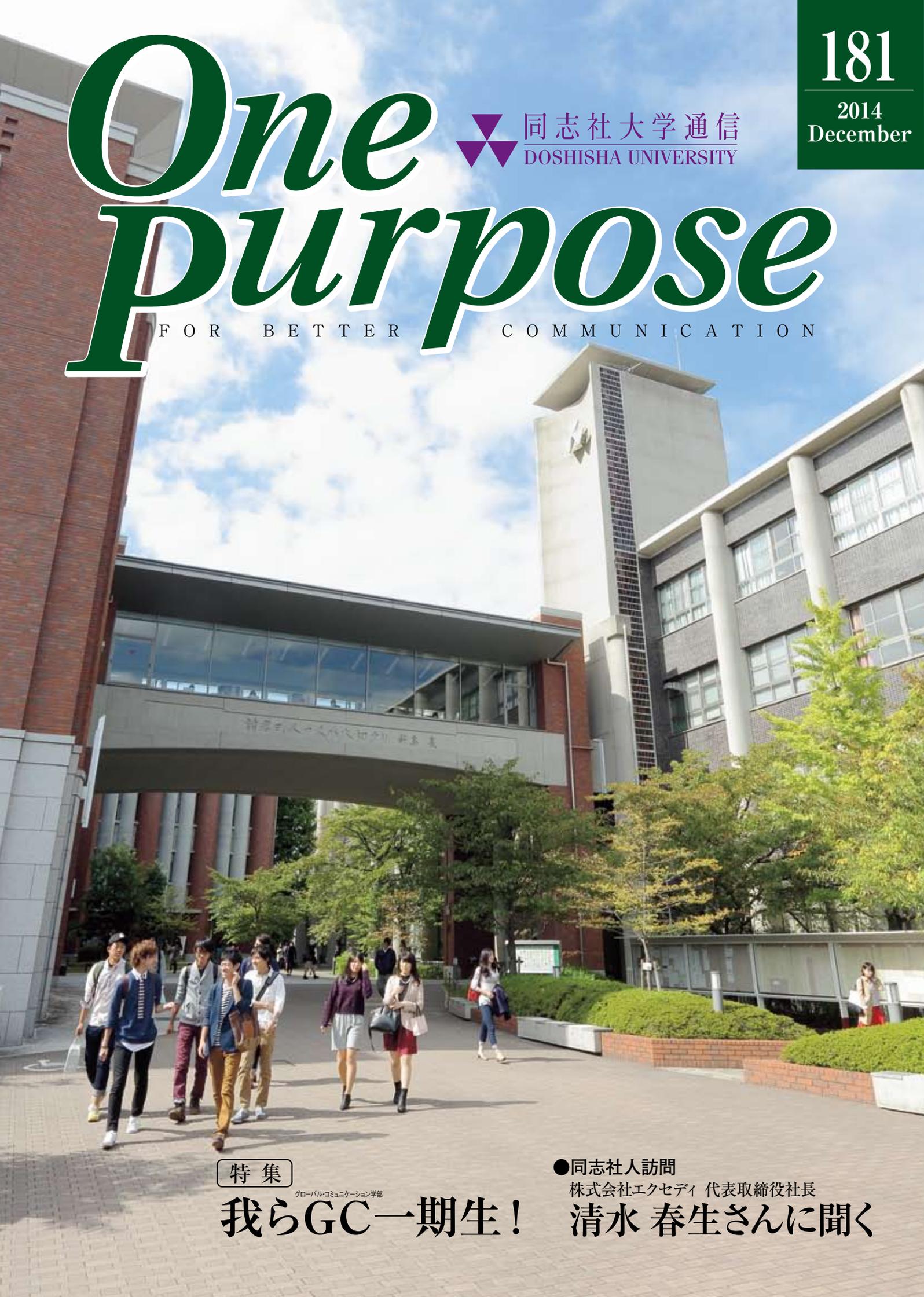




同志社大学通信
DOSHISHA UNIVERSITY

One purpose

FOR BETTER COMMUNICATION



特集

グローバル・コミュニケーション学部

我らGC一期生!

●同志社人訪問

株式会社エクセディ 代表取締役社長

清水 春生さんに聞く

CONTENTS

2014 DECEMBER No.181

『ONE PURPOSE』は在学生・卒業生の皆さんとのコミュニケーションをはかることを目的として発行しています。ささいなことでも結構ですので、どしどし広報課までご意見・情報をお寄せください。



特集

グローバル・コミュニケーション学部

我らGC一期生!

-----	2
SEMINAR ~ゼミ探訪 学びの時間~ -----	9
心理学部 畑 敏道 ゼミ	
同志社の研究は今 -----	11
超音波医科学研究センター 秋山 いわき 生命医科学部教授	
来年度就職を目指す皆さんへ -----	13
CAMPUS NEWS -----	15
JMOOC講座「アメリカ映画と政治」の受講受付が始まりました! / 同志社ハリスフォーラム2014「クルマの未来を支える情報通信技術」/ 安中・会津キャンプを開催 / 平成26年司法試験合格者発表 / 同志社大学 客員教授リレー講座 開催 / 本学教員の執筆図書紹介	
留学生紹介 -----	19
ラマス・ホルヘさん(理工学研究科)	
INTERVIEW ~同志社人訪問~ -----	20
株式会社エクセディ 代表取締役社長 清水 春生さんに聞く	
MY JOB, MY LIFE ~シリーズ 私と「仕事」~ -----	23
・松本 卓也さん(2009年 政策学部卒業) ・橋本 優子さん(2013年 社会学部教育文化学科卒業)	
ANNOUNCEMENT -----	25
MY PURPOSE ~挑戦する人~ -----	27
「第12回京都学生祭典」副実行委員長~学生の力を集結し、京都を盛り上げる活動に貢献~ ・吉見 智裕さん(社会学部産業関係学科 3年次生)	

表紙の情景 [新町キャンパス渡り廊下]

新町キャンパスの臨光館と尋真館にかかる渡り廊下に刻まれた新島襄の言葉「諸君ヨ、人一人ハ大切ナリ」。これは、1885年12月28日、同志社英学校創立10周年記念式典における式辞の中で、「諸君ト共ニ今往事ヲ追想シテ記念シタキハ、昨年我不在中同志社ヲ放逐セラレタリシ人々ノ事ナリ。真ニ彼等ノ爲メニ涙ヲ流サザルヲ得ズ。彼等ハ或ハ真道ヲ聞キ真ノ学問ヲナセシ人々ナレトモ、遂ニ放逐セラルノ事ヲナシタリ。諸君ヨ人一人ハ大切ナリ、一人ハ大切ナリ。往事ハ已ニ去レリ之ヲ如何トモスル事能ハズ、以后ハ我等実ニ謹ム可シ」(『新島襄全集』1,107頁)と述べ、自らが欧米滞在中に生徒たちが退学処分を受けたことを悲しんで発した言葉である。

生徒たちを決してマスと見ることなく、一人ひとりを大切にすることこそ教育の基本とした新島の教育観がよくわかる。



特集

我らGC一期生!

2011年4月、同志社大学は150人の熱い志を持った先駆者たちを迎えた。
同志社の「国際主義」をさらに進化させる使命を担った、グローバル・コミュニケーション学部の栄えある一期生。
新たな道を切り開くパイオニアとして、その足跡は全てが後に続く者たちの道標となる。
初めて経験する学びに彼ら、彼女らはどのような思いで取り組んできたのだろうか。



一期生が拓いてきた道、残した軌跡

新設学部を門を勇気を持って叩いた一期生たち。学部としての形はあっても、実際の運用に大きな役割を果たしてきたのは学生自身。その学びと成長について学部長が語る。

互いに切磋琢磨して 能力を高める場

同志社大学の国際化のさらなる進化発展のため、グローバル・コミュニケーション学部が誕生して4年、校祖新島襄が国禁を犯し密出国して二五〇周年の記念すべき年に学部完成年度を迎えました。来春にはいよいよ最初の卒業生が社会へ出て行きます。就職内定率も非常に高く安堵いたしました。

一期生たちを見て思うのは、学生たちがお互いに切磋琢磨し、自らの能力を高めているということです。入学当初、一定以上の外国語能力を有しているとはいえ、海外居住や留学を経験した者もおれば、一方、国内だけで学び、海外渡航経験すらない者もありました。しかし、語学演習クラスでは、一部の例外を除き、習熟度別クラス編成を行っていません。例えば、プレゼンテーションに関して言えば、外国語はつたないが論理的にプレゼンができる学生、逆に、流暢に外国語を操れるが論理性にやや劣る学生もいます。しかし、混合クラスでは、お互いに刺激し合い、影響を受けあっ

てプレゼン能力を高めていきます。少人数クラスなので教員との距離も近く、切磋琢磨しうる非常に良い環境が生まれました。

自主的に行動する意欲が "伝統"に

自主性に富んだ学生が多いのも、当学部の特徴です。高いプレゼン能力を身につけていくことから、初年度のオープンキャンパスでは、一期生の学生から自分たちの言葉で学部の紹介をしたいという申し出がありました。教員の学部紹介とは別に、学生たちによる学部紹介を行うのは、当学部の新たな「伝統」となりました。1年目は自学自習室に収容しきれないほど多くの聴衆があり、2年目からは大講義室で行うようになりました。また、当学部のグローバル・コミュニケーション学会では、学部生用の機関誌『コスモス』を発行していますが、これも学生が編集委員となり、自分たちでテーマを考えて編集・制作しているもの。指導にあたる教員はいますが、主体となつて動くのは学生たちです。少数の学部で密接な関係を築いていくうちに、自分たちで何かをやりたい、表現したいという意欲

が生まれるのと同時に、結束力が強まりチームワークにも優れた学生が育つていくのだと思います。

プロジェクトで推進・交渉・ 運営管理能力を实践

当学部では実践的な学びの集大成として、4年次にSeminar Projectという必修科目を設定しています。学生たちが自らプロジェクトを提案し、それを実際に推進していくというもので、しかも学生は英語・中国語・日本語の3コースを

横断して参画しますから、日本人学生と留学生が協力して進めていく態勢になっています。ここでも教員はアドバイザー的な立場。

テーマ設定から実行まで、実施主体は学生自身。授業外学習時間は学内といわれる日々の自主的な勉強やStudy Abroad(留学)での経験を通して培ってきた「まなび」に「Facilitator」「Negotiator」「Administrator」たるべき推進・交渉・運営管理能力を实践する場だ

といえるでしょう。

今年7つのテーマに沿ってプロジェクトが動いており、来年1月24日午後2時から、今出川キャンパスの良心館(RY2)で一般公開による成果発表会を開催します。代表3プロジェクトの発表と7プロジェクトの代表者によるパネルディスカッションを行います。来聴歓迎。一期生には特に開拓精神旺盛なやる気のある学生が多く、大いに期待しているところです。



中村 久男

「グローバル・
コミュニケーション学部長」

後に続く者たちへ 第一走者たちからのメッセージ



同志社大学13番目の学部として誕生したグローバル・コミュニケーション学部。英語・中国語・日本語の各語学にフォーカスした異色のコースを初めて経験した一期生が、それぞれの学びへの思いを語る。

第一義の目的は語学力を高めること

窪田 ● グローバル・コミュニケーション(以下・GC)学部の一期生として入学した皆さんは、英語・中国語コースでは1年次に早くもStudy Abroadの準備が始まり、1年間の留学を終えて帰ってきたら、4年次からは日本語コースも加わってSeminar Projectがスタート。各年次でいずれも初めての経験を積み重ねながら、いよいよ卒業を目前に控えました。そもそも新設学部の初年度生として入学時は少なからず不安があったと思いますが、まずはどうしてこの学部に入ろうと思ったのかを教えてください。

門澤 ● 私は高校生のときに1年留学をし

ているのですが、語学力はまだまだ十分ではありませんでした。4年間しっかり語学が勉強できて、しかも1年間留学するカリキュラムがあるということを選びました。

眞田 ● 僕は小学校から高校まで野球をやってきて、甲子園にも出場したことがありますが、最後の夏に負けてから初めて野球をしない期間ができたのです。野球部以外の人と話すことで、今まで野球の世界でしか生きてこなかった自分に気がつき、大学ではいろんな人と出会いたいと思いました。それに、英語が話せたら純粋に交流する人の数が増えるだろうと思ったのです。

塩崎 ● 僕は小さい頃に中国に住んでいて、中学生のときに帰国し同志社国際中学校に編入しました。大学に行くなら自分の興味のあることを伸ばしたいと思っていて、それに該当するところを探していたら、ちょうど僕らの年から同志社大学にGC学部ができ、しかも中国語コースがあるということだったので志望しました。

金 ● 私は韓国から留学してきたのですが、日本の大学を選ぶ際、名前にグローバルと

付いていたため、父がこれからは「グローバルの時代だ」と薦めてくれました。社会に出たらコミュニケーションが大事だということもあり、グローバルとコミュニケーションだから、将来きっと役に立つ勉強ができると思ったのです。カリキュラムにも実用的なビジネス用語などの科目があったので、日本語の能力を深めることができると思って決めました。

自分たちの手でつくっていく学部

窪田 ● GC学部が一期生が入学したとき、学生の方から新しい学部をつくっていくという熱意を感じました。私たち教員も、そんな学生と一緒に学部をつくっていくという決意を新たにしました。皆さんは一期生としてどのような学部にしたかという思いがありましたか。

眞田 ● 自分がということではなく、一期生という貴重な立場なので、留学などの経験で感じたことを行動に移したり、新しいチャレンジができる場でした。一期生だから後輩のためにもいい学部をつくらうという気持ちの人が多く、そういう意味ではみんなの熱意に引っぱられたというか、一緒に頑張ることができた環境でした。

門澤 ● 私は大学に入ったらきちんと勉強をしたかったのですが、GC学部はみんなすごく勉強しているし、せざるを得ない環境でもありました。しかも受動的ではな



窪田 光男
「グローバル・コミュニケーション学部教授」

く、自分の思いで勉強しているという雰囲気があった、この学部がすごく好きになりました。そんな私の思いを周りの人に伝えたいという気持ちから、オープンキャンパスでもせっかく一期生がいるのだから学生の生の声を届けられる機会があればと思います。事務の方に相談したら、それが早速形になりました。今もそれが続いているのでうれしいです。

塩崎 ● Study Abroadもプログラムの具体的な中身がまだきちんとつくられていないので、僕らがそれをつくることができるん

じやないかと考えていました。僕たちが経験したStudy Abroadは次の人たちも参加

考にできるし、その環境はまた3年次生

で帰ってきた人たち、2年次生で今行っている人たちがこれからどんどんつくっていくものでもあります。僕は上海に行ったのですが、現地にある日系企業の見学をさせてもらったり、上海領事館の人と話ができる機会があったり、向こうではいろんな

ことができました。そんな基盤を自分たちがつくって次の人たちの手助けになり、指標として示していけばどんどん完成形に近づいていくのではないのでしょうか。

窪田 ●まさに開拓者という感じがですね。

すね。

塩崎 ●一期生はみんなそういう気持ちは持っていると思いますし、そうでない人も一緒に活動していたら影響を受けて変わっていったと思います。

窪田 ●金さんは留学生ということで、学部の中でも英語・中国語コースの学生とは立場がちよっと違ったかもしれません。

金 ●最初は授業を聞くだけだったので、なかなか日本人の学生と仲良くなることはできませんでした。私の周りだけのこともかもしれませんが、その国の留学生同士で集まってしまふことが多いのです。それがとても残念で、自分が積極的に動いたらいろんな人と話すこともできるし、そうしないといけないと思うようになりました。日本



人学生の皆さんも、留学生にもっと声をかけてほしいですね。

レベルが異なっても一緒に頑張っていく

窪田 ●次は、この4年間で印象に残っていることを教えてください。

眞田 ●入学してすぐにTOEFLのテストがあったのですが、隣にいた人からすごくきれいな英語で質問をされたのに驚きました。僕は一般人入試で入り、みんな同じスタートラインで走り出すものだと思います。

で、本当に衝撃でした。周りには帰国子女や過去に英語を使っていた人がたくさんいます。でも逆に、僕みたいな人もいっぱいいて、純粹に英語がうまくなりたいという思いを持ち、みんなそれに向かって頑張っていると思うので、そういう人も認めてくれるという雰囲気周りにもあったので、すごく頑張れたと思います。

門澤 ●先ほどのオープンキャンパスの話に関連するのですが、今年の1年次生で一人、オープンキャンパスで私の話を聞き、私と話してGC学部に来たという人がいたのです。オープンキャンパスはアンケートなどでフィードバックがあるわけではないので、私たちが伝えたいことだけを発信してしまっているんじゃないか、本当にそれが受験生のため、学部のため、大学のためにやっているのかという懸念がありました。それが、実際に私の話を聞いて入学してくれた人がいたので。4年目で初めて自分がやってきたことの成果が目に見えてわかって、すごくうれしかった。こういう事例がどんどん出てくればいいなと思います。

窪田 ●やったことの結果を実感できることはあまり多くないですから、いい経験をしましたね。

語学以外に学んだことも多い

塩崎 ●僕が思ったのは、いい意味で真っ白な学部だということです。全てを通して



眞田翼さん【英語コース】



ユジョン
キム 金裕晶さん【日本語コース】



塩崎拓臣さん【中国語コース】



門澤愛さん【英語コース】

自分たちでつくっていかなくてはならぬし、すごくクリエイティブな体験をしている。Study Abroadに関しても、自分から動かないと何も始まらないようなことばかりだったので、すごく刺激を受けました。高校のときまでは自分から動くタイプではなかったのですが、動き出すことが大事だし、動いた分何か得られるものがあるということを実感しています。最初は語学力の向上、留学を目的に入ったのですが、今振り返ってみると、もっとたくさんいろいろなことを学んでいたという印象がありますね。

金 ●日本語コースの科目の中に、日本の伝統文化という授業があります。能や文楽、歌舞伎など、実際にその仕事をしている人に教えてもらい、観に行ったりもするのですが、そういう経験ができたことは、日本の文化を知り、きれいな日本語を使いたいという目標をかなえるためにも、とてもよかったですと思います。私は趣味がお寺めぐりなのですが、京都にはお寺が多く知識や情報を得ることができたので、もしかしたら日本人より詳しくなったかもしれません(笑)。

門澤 ●日本の伝統文化も現代文化も、私たちが知っているのはごく一部です。留学先でお寺のことを話すときなど、全然詳しくないのに「さすが日本人だ」と思われてしまいます。そんなとき、もっと知っていたらちゃんと自分の言葉で話せるのと思いました。

塩崎 ●確かに向こうに行つて初めて、いかに日本のことを知らないか気づいたことありますね。

眞田 ●英語がしゃべれるかどうか以前に、日本のことが出てこない(苦笑)。

Seminar Project 交渉力を磨く

窪田 ●GC学部は「Facilitator」「Negotiator」「Administrator」を育てようとしているのですが、例えば「Negotiator」を育てるとしても、授業で様々な局面での交渉の仕方を網羅的に教えることは不可能です。そこで実際に体験する機会を設けようと思われたのがSeminar Projectです。今、皆さんがまさに取り組んでいるところですが、どういふことをやっていてどんな学びがあったのでしょうか。

塩崎 ●僕たちは実際に京都のお店を回って、その店主に「外国人向けにお店をグローバル化しませんか」と提案しています。承諾が得られたら、そのお店の人と具体的に売り場をどういふふうにしていくかを話し合うのですが、そこで必要になるのが交渉力です。飛び込みでいرونなお店を回っていくうちに、自ずとその力が磨かれていっている気がします。

眞田 ●門澤さんも一緒に僕たちのプロジェクトは、外国の人と写真を撮り、それを使ったモザイクアートで京都の町を世

界に発信する。さらに、写真を撮る際に外国人が不便に感じることを聞き取り、それを反映したガイドブックをつくるというものです。例えば、外国人に協力を依頼するとき、アプローチの仕方によって了承してもらえない確率が変わってきます。どう持ちかけるか工夫することが、交渉力を養うことにもつながっているのではないかと思います。

金 ●私はSeminar Projectで、立派な成功だけが人生じゃないということを学びました。私たちは留学生支援をプロジェクトのテーマにしているのですが、つい「私たちが助けてあげます」という姿勢になりがちです。でも、留学生が苦労しているのは私も理解できますから、「一緒にやってみませんか」といふふうには共感を得ないといけないのです。実際わかっただけじゃないことが多く、成功しているとは言いがたいのですが、失敗しても大事なのは過程です。「失敗しました、でも私たちはこういうふうに取り組んで、こういう成果を得ました」といふような活動をしていきたいと思っています。

アドバンテージが多かった 就職活動

窪田 ●就職活動もGC学部生として初めての経験でしたが、苦労や逆にアドバンテージを感じたことがあったら教えてください。



びをあげることができ
し、自分の思いも十分に伝
えられたと思います。エビ
ソードづくりが大事と言
われますが、つくる必要も
ないほどいろんな体験を
してきましたから。

眞田 ● 一期生として頑
張ってきたことをアピー
ルできたのも大きかった
ですね。

金 ● 私たちは留学生な
ので、就職活動の専門の
先生に教えてもらうカリ
キュラムがあつて、いろい
ろサポートしてくださ
いました。ビジネス用の日本

自分がその時々でいいと思う選
択を恐れずしていきたいと思つて
います。会社に入ると自分の仕事をこな
すことで大変かもしれませんが、なるべく
自分の視野は広く持っていたいですね。

眞田 ● 僕は留学して日本がすごく好きに
なりました。就職先が宇宙・航空関係の分
野で、すごく国との結びつきが強いので、
日本という国をもっと世界にアピールで
きる人間になりたいと思っています。

金 ● 私は今まで自分の価値観、考えが正
しいと思つて生きてきた部分があるので
すが、G・C学部に入つて自分とは違う環境
で育った人たちと話す機会が増え、自分の
考え方が正しいと思うのはよくない
ことだと気づきました。社会人になつてか
らは、柔軟性を持つていろんな人と共感で
きる、いろんな価値観を吸収できる人間に
なつていきたいなと思つています。

塩崎 ● 自分がやりたいこと、面白いと思
うことにはどんどんトライしていこうと思
つています。就職する会社もそれがで
きる環境にあるので、若いうちにエンジ
ンをフル回転させてどんどん新しいことに
チャレンジしていきたいですね。

窪田 ● 皆さんは私たち教員や後輩たち、G
C学部全員の期待を背負つて社会に出て
いきます。一期生としての誇りを持つて、
ぜひ頑張ってください。本日はどうもあり
がとうございました。

語を勉強したり、日経新聞を讀んでどうい
う情報が大事かということを教えてくだ
さつたので、不安はありませんでした。

G・C学部一期生についての 期待を背負つて

窪田 ● 最後に、これから社会に出て行つ
てどういうふうに関心を成長させていこ
うと思つているか、抱負を聞かせてくだ
さい。

門澤 ● 留学を経験して、日本でレールの上
に乗っているだけではない選択肢がある
ことがわかつたので、視野を広く持つて、

門澤 ● やつぱり先輩がいないので情報が
なく、効率のいい就職活動ができたのかど
うかは疑問です。でも終わつてみると、た
くさんある情報の中から必要だろうと思
う情報を自分で選んで行動していたので、
結局は良かったのかなと思います。面接が
始まつてしまえば自分の思いを伝えるだ
けだし、面接官は学部に興味を持ってくれ
ている人が多かつたので、歴史がないこと
で損をしたことはありません。

塩崎 ● 僕は海外で働きたいということ
前提に会社を選び、面接に臨んでいたの
で、海外で働く根拠としてG・C学部での学



留学経験学生

経験者が語る My Study Abroad

グローバル・コミュニケーション学部の最大の特徴であるStudy Abroad。海外生活の経験者も未経験者も、自分で行き先を定め、何を学ぶかを決める。その1年の時間は、学生たちに何を与え、どんな変化をもたらすのだろうか。

ゴールを決めて、そこに向かう努力が大切

大川 貴弘 さん【英語コース 4年次生】

何より1年間の留学が必修だということがグローバル・コミュニケーション学部の魅力でした。留学先にアメリカ(カリフォルニア大学デービス校)を選んだのは、いろんな国から留学生が集まっていて、いい意味で特別扱いされないということが理由です。また、実力主義で優劣がはっきりする厳しい環境で、自分の英語力やコミュニケーション能力を磨きたいとも思いました。留学の一番の目的はそれですが、

ずっと心に留めていたのは、自分のポジションを見つけたということです。それまでの自分の殻を破るというか、海外へ行ってバックグラウンドがまったく違う人たちの中で自分がどういう立ち位置でいるのがいいのか、それを探していくことも大きな目的でした。

最初の学期は語学学校に通い、その後は現地の一般学生と同じように大学で専門分野を学ぶことになります。私が選んだのは

国際政治。就職にも生かせると思ったのが理由ですが、特に国際政治という分野は様々な国の人たちが集まってきていて、自分の国の立場や考え方がそれぞれで違います。そうした人たちとディスカッションする中で、いろんな意見を聞きながら自分の考えを構築していく。自分の考えを伝えた上で、そこに別の意見を融合させていく。相手の言葉を聞く姿勢、時には相手の異なった意見を受け入れていく姿勢が必要だということを改めて認識しました。

また、留学というのは語学を学ぶだけではなく、コネクションや視野を拓げるための機会でもあります。そういう点で外国の人たちと関わるだけではなく、同じように海外に来た日本人とも関わることで、逆に日本人としての視野を広げることができるのではないかと思います。

これから留学する人たちには、1年間で到達すべき自分のゴールを定めて臨んでほしい。ゴールを決めてそれに向かって努力していく、行動していくというのが、1年間の留学生生活を有意義にする方法だと思います。



自分自身を変えた“母の故郷”中国での1年

鍵山 裕香 さん【中国語コース 4年次生】

私は母が中国人なのですが、今まではずっと日本語で生活してきたので、大学できちんと中国語を勉強して、母の国、私の第二の祖国でもある中国のことをきちんと知りたと思ってグローバル・コミュニケーション学部に入りました。学部の特徴にStudy Abroadがあるということだったので、ぜひ中国に留学したいと思っていました。北京は中国の中心なので中国全土から優秀な学生が集まること、そして中国人だけでなく中国の最高峰を目指してくる外国人の留学生も多いことが、北京大学への留学を決めた理由の1つです。母の出身地で祖母や親戚の人たちがいる上海(復旦大学)という選択肢もあったのですが、留学の目的には、生活の全てを中国語で満たしたい、生活の中に中国語を染み込ませたいということがあったので、いちばん標準語に近い北京語で生活できる環境で学びたいと思ったのです。

留学を経験して語学力はもちろん上がりましたが、私自身の中でいちばん大き

な変化は、以前は常に何か理由を探して踏み出さないでいた自分に、興味を持ったらずいぶん飛び込んでみるという積極性が身についたことです。中国人のコミュニティに溶け込むために中国語の手話サークルに参加したのも、チャンスがあれば逃がさないで飛び込もうと思うようになったからでした。

大学では、クラス分けがあったとき、与えられたクラスよりも1ランク上のクラスへの変更を先生にお願いしました。自分の実力よりも上のランクのクラスですから、クラスメイトはレベルが高く、使う教科書も難しいのですが、私はそこで頑張りました。そうすることで自分の力のレベルは着実に引き上げられた気がします。後輩の皆さんには、難しいと思ってレベルを下げるのではなく、その難しさに立ち向かって頑張ってもらいたいと思います。1年の留学生活を通して得た積極性と、困難なところにあえて身を置き、実らないかもしれないけれど努力をコツコツ続ける姿勢を、今度は社会人として仕事に生かしていきたいと思っています。



心理学部
畑敏道ゼミ

冷静に考え、 判断する力を身に付ける。

生命科学と心理学をつなぐ 生理心理学を研究

心理学部が京田辺キャンパスに開設されたのは2009年。しかし、その歴史は1875年に開校された同志社英学校の科目「性理学(心理学)」にまでさかのぼる。

1927年には文学部に哲学科心理学専攻が設置され、以来、実験心理学研究を極めようとする心理学実験室の伝統が刻まれ続けてきた。この実験心理学研究の伝統を色濃く受け継いでいるのが、生理心理学を専門とする畑敏道ゼミである。

データ収集・分析をし、脳との関連を解明していく。心理学部の中でも、他のゼミにはない特徴である。

「心理学部に進学する学生は、いわゆる「文系」がほとんどなので、苦手だと感じる人が多く、この分野で研究してみようと思う学生はそう多くはありません。しかし、地道に実験を続けることによって、真実に近づいていることを感じられる面白さがあります」

畑敏道ゼミには、研究者を目指すしている学生も比較的多く、心理学に加えて生理学についての知識や、実験に必要な技術を段階的に身につけていく。3年次のゼミでは論文を読んで報告し、その中で脳についての専門的な知識を修得。4年次では、実験の技術的なことを覚えつつ、卒論に向けて実験データを収集・分析し、ゼミで内容を練り上げながら、それぞれの研究成果を形にしている。

誰にも身近な心の問題だからこそ「本当にそうなのか」と考える

卒業論文では、先に論文として発表された同じ実験を、違う人が行う「追試」と呼ばれる実験を行うこともある。その理由を畑先生はこう説明する。

「物理学などいわゆる「理系」の実験と比

畑敏道

【心理学部教授】





べると、心理学の実験では、同じ方法で実験しているつもりでも必ずしも同じ結果が出ないことが多いのです。確率的にみればそのような可能性が高いという程度のことが多いのは、いろいろな要因が複雑にからんでいるからです」

本当に同じ結果になるのか、ならないならどこに要因があるのかを発見していくことに追試の目的はある。取材日に発表した、4年次の畑佑美さんの実験も追試だった。テーマは「ラット

発表の間、畑先生がしきりに繰り返していたのは「先入観をなくしてデータを見なさい」それは自分だけの価値観なのではないかと思いなさい」ということ。

「学生には冷静になって考えろということとを身につけて欲しいのです。心のこととなると、つい自分の価値観で決めたくなるかもしれません」「本当にそうなのか」としつかり考えて、自分の勝手な意見で事実を曲げてしまっていないか。そういうところが考えられるようになってもらえればいいと思います」

粘り強い実験を支えるのは「わからない、だから知りたい」という学びの根本にある思い

学生に、畑ゼミでの学びの面白さについて聞いた。

「追試では、前の人と同じような実験結果が出ないこともあります、その理由を考え、次に自分が疑問を解決できるように実験をする、そのプロセスが楽しいです。動物実験なので、時間はかかりますが、みんな根気があります」と答えてくれたのは、畑佑美さん。

中国からの留学生で4年次の蔣宇さんは、「外部のNPO法人と共同で、砂糖の記憶に対する効果について研究しています。実験は、生きている動物が実際に行動しているところ、つまり脳からアウトプットさ

れているものを観察するのが面白いと思います。実験は楽しいのですが、いつもうまくいくわけではありません。辛抱強くやっていくしかないと思っています」と語る。

ゼミ以外の時間は、ほとんど実験室にいるという学生たち。動物を扱うため、個室での孤独な作業も多い。しかも、思い通りの実験データを得るまでには時間がかかる。それでも、「動物を世話するだけでもたいへんなことなのに、こちらが心配になるくらい、根気強く実験に取り組んでくれてます」と畑先生。心配が半分、ほめたい気持ち

が半分といったところのようだ。

粘り強く実験を続けられるモチベーションは何なのだろう。

「それまで教科書では頭に入ってこなかったような理論も、実際にラットの動きを見ることで、こういうことだったのかと理解できます。脳科学や化学などいろんな分野の知識も吸収しながら、心理学の基礎をしっかりと学んでいるという実感があることです」と教えてくれたのは、ラットを使って脳の特定の部位の



はたらきをストップさせることでラットの時間知覚がどのように変化するかについて実験をしている4年次の下田翔太さん。

ラットの時間知覚が恐怖感によってどう変化するかのカメカズムについて研究している博士課程(前期課程)2年次の鎌田泰輔さんは、「動物は人間のように言葉を持たないので、行動を見て、それをどう考えるか。非常にやりがいがあります。実験は仮説通りにはいかず、失敗のほうが多いのですが、ラットが思うような行動をしたときには感動があります」と語る。

それぞれの話を聞いて、全員が出した結論は、「心のことはわからない。だから知りたい」に尽きるとのこと。畑先生も大きくうなずきながら、「実験をしていると、こ

で休みたくないという日があることは私にもよくわかります。でも、休みはちゃんと取ってね」と学生に労りの言葉をかけると、「休みよりデータがほしい！」と学生の声。これには畑先生も反論の言葉が見つからなかったようで、一同が顔を見合わせ

の向社会的行動についての検証。数カ月にも及んだ実験結果を報告する畑さんに対し、実験方法やデータの取り方、解釈などについて、畑先生のみならず、学生たちからの質問や意見が飛ぶ。畑さんの意図を伝えるためには、グラフの目盛間隔を変更したほうがわかりやすいのではないかとという具体的なアドバイスまであった。学部生は全員で8人の少人数ゼミということもあり、先生と学生との距離がとても近いのだ。

「一人でデータを見ていると、思考が固まってしまうので、他の人から実はこういう見方もあるのではないかと意見を聞くことは大切だと思います」

ヒトにやさしい医療を目指す、 超音波を基軸とした 新たな医療技術開発の拠点

2011年3月の福島第一原発の事故を契機として、医療においても放射線被曝の問題がクローズアップされている。診断・治療における患者の被曝線量の低減が重要な課題となる中、被曝がなく生体への作用が小さいことから、安全性の高い医療技術と位置づけられているのが、超音波による診断・治療法である。超音波を安全に使用するための出力範囲を明らかにするとともに、診断のための精度の高い定量検査手法を新たに確立し、プロジェクト終了後も継続的に安全基準を示していく体制を整えることを目的に、2013年6月、「超音波医科学研究センター」が誕生した。次世代の新しい超音波技術開発の拠点としての役割を担うセンターの活動やその意義について、センター長の秋山いわき生命医科学部教授に伺った。

超音波医科学
研究センター

秋山 いわき

【生命医科学部教授】

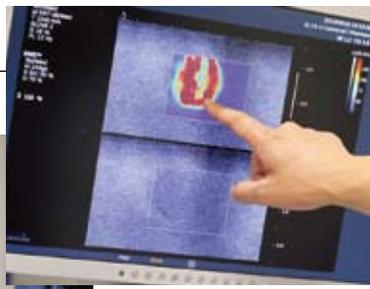
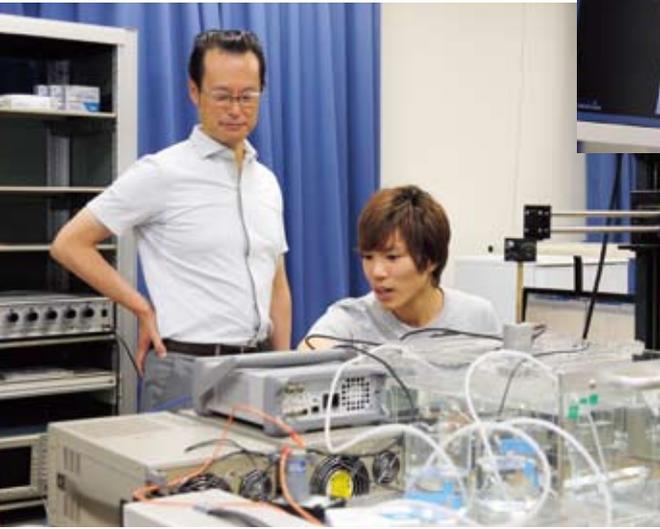


次世代の超音波技術開発の 拠点として

現在、超音波は診断のほとんどの領域で利用されています。心臓、消化器、産婦人科、最近では整形外科でも使われるようになりました。ただ、画像診断という意味では、CTやMRIに比べて超音波は得られる情報が少ないことから、症例によっては、CTやMRIに頼らざるを得ない場合があります。しかし、放射線被曝のない超音波は、安全性の点では優位に立っており、同じ情報が得られるのであれば、放射線ではなく超音波が選ばれるべきです。そのために超音波の持つウィークポイントを改善し、より高度な次世代の超音波診断技術を開発する拠点となることを目的に、「超音波医科学研究センター」は発足しました。メンバーは生命医科学研究科と理工学研究科において超音波技術を専門とする教員を中心としており、大きく4つのテーマに分かれて研究を進めています。

超音波の安全性をチェック できる日本唯一の機関に

研究テーマの1つ目は、超音波を安全に利用するための指針を継続的に示すことです。超音波には安全という優位性がありますが、超音波の強さが大きくなると、温度上昇発熱（組織の損傷（出血）といった生体への影響）が現れます。発熱や出血があっても、その程



と計算の仕方がややグレーゾーンであることが判明し、動物実験で安全

度が小さければ問題はありませぬ。超音波を照射する範囲もそれほど広くはないため、これまではその影響度を厳密に測定していませんでした。理論的に予測される範囲内であれば大丈夫だろうということで基準が決まっております、これまで30年以上にわたって全く問題はありませんでした。しかし最近、新しいイメージング装置が開発され、これまでの計算の方法では安全性が確保できないようなものも登場しています。また、画質を向上させるために、より強力な超音波を使う傾向があります。実際、5年ほど前に私がある学会の超音波の安全性に関する責任者になっていたときに、そうした新しい装置が海外のメーカーから出てきたことがあります。よく調べる

新しい小型超音波診断装置の開発へ

性を確認することになりました。そんなことをきっかけにして、超音波に関しても安全性の基準を動物実験等によって調べる必要性が出てきたのです。今後いろいろな新しいイメージング装置が出てきますから、超音波を安全に利用するための指針を示し、そのつどチェックできる第三者的機関として当センターを位置づけたいと考えています。世界にはいくつかありますが、現在の日本には、そうした機関はなく、唯一のものとなります。しかもこれは、検査によるリスクと得られる診断情報の大きさを常にバランスさせて患者の生命を救うことが求められている医療の現場と独立した機関であることが重要です。同志社大学の生命医科学部だからこそ可能なものと言えます。

2つ目は、従来技術では難しかった、生体組織の熱的な特性の分布を映像化し、臨床診断へ新しい生体機能情報を提供することで、基本的に超音波診断で用いられる情報は「形」です。肝臓や腫瘍の形を見ることは容易ですが、内部がどのような状態なのかを知ることが難しいです。CTであれば、例えば肝臓なら数値データの定量変化で、悪性が良性格が判断できます。超音波もそうした数値で組織の変化がわかれば、従来よりも多くの情報が得られることとなります。そこで、われわれ

は熱的な作用に着目して組織を識別しようと考えました。生体に影響のないレベルで組織を超音波で暖め、温度の上昇の仕方を測定することによって、組織の性状を判断しようということです。

生命医科学部にはコウモリの研究をしている先生がいらつしやるのですが、コウモリも超音波を使っていて、それでエサの位置を探したり自分の居場所を確認したりします。コウモリが超音波を送受信して位置を特定する、その処理方法の研究から得られた成果を用いて、従来の技術にはない新しい超音波診断装置をつくっていくことが、3つ目のテーマです。現在、携帯電話程度のサイズの非常に小さな超音波診断装置が開発されています。コンパクトサイズで処理するにはいろいろな技術的改良が必要になってきますが、そこにコウモリの信号処理技術を使う。コウモリは小さな脳で信号処理をするので、そんなに複雑なことをやっているわけではありません。そういう単純で負荷をかけない処理方法を応用して、新しい小型の超音波診断装置を開発しようとしています。

超音波技術が診断の信頼性を大きく改善

4つ目は、超音波による生体組織の形質的診断を可能にすること。組織の情報を得る方法として、今注目されているものに組織の硬

さを測るという方法があります。良性の腫瘍と悪性の腫瘍では硬さが違います。良性は柔らかく、悪性は硬いですから組織の硬さがわかれば、腫瘍の悪性の程度を判別することができるのです。医師は触診で硬いか、やわらかいかを診ますが、奥の方は触つてもわかりません。そこで超音波で体の奥底を触診する、手で触る代わりに超音波で触るというイメージです。

現在、それぞれの研究は個別に進めていますが、研究が進展するにたがって関係するところは融合していくこととなります。これらの研究のテーマが実現することになれば、ガンや心筋梗塞など、従来難しかった診断や放射線検査に頼らざるを得なかった診断を、安全性の高い超音波で行うことができるようになります。診断の信頼性が大きく改善するところが期待できます。さらに、医療用超音波技術の確立によって、在宅医療における携帯型超音波イメージング機器の利用が進めば、医療費の増大を抑制する効果も期待できるでしょう。そのためにも、当センターが研究の拠点となり、成果を確実に出していく必要があると考えています。



来年度就職を目指す皆さんへ

豊かな人生のために 充実した学生生活を

就職を取り巻く状況

今年度のトピックスは、スケジュール後ろ倒しの就職活動がスタートすることです。2013年4月に、政府から経済3団体に大学生の新卒採用に関して要請がなされ、同年9月に日本経済団体連合会から「採用選考に関する指針」が発表されました。現3年生2016年4月採用から、企業の広報活動の開始時期を3年生の3月、採用選考活動の開始時期を4年生の8月と3〜4カ月後ろ倒しになりました。前回の変更が広報活動時期の後ろ倒しに止まり、選考活動の開始時期がそのままであったことに比べると大きな変化です。キャリアセンタ―では、10月中旬に第1回ガイダンスを開催し、現3年生への就職支援を開始しました。そして2015年3月には大規模な企業研究セミナーを今出川校地と京田辺校地で開催します。幅広い業界や、大企業から中小企業まで規模も様々な企業が、同志社大学生を採用したいと集まって来られます。ここでは希望する業界や企業の説明をできるだけ聞いて、志望企業を的確に絞り込んでほしいと思います。そのため

準備として、自己分析・業界研究・仕事研究を深め、就職活動の方法を身に付けてもらうために、第1回のガイダンス以降ほぼ毎日、セミナーや講座を実施しています。ここで大切なことは、自身のキャリアについて考え抜くことです。自身の個性を見つめて、個性を生かした就職活動をしてください。そして、4月以降もエントリーシート締め切りのピークや面接時期に合わせてセミナーや講座を計画しています。現4年生の採用状況ですが、好調のうちに推移しているのを見ています。リーマンショック以降「厳選採用」が定着してきましたが、景況感の改善等により、今年は「売り手市場」と言われています。しかし、一方で企業の方は基準を下げてまで採用しませんとも言われています。グローバルな経済環境の中で国際競争に勝ち抜くためには、「コア人材」つまり企業の発展を支える次世代を担う人材を確保する必要があります。そのため「厳選採用」なのです。企業は単に数合わせで採用しているのではなく、「コアになる人材がほしい」と考えているのです。

一人て複数の内々定を得る学生と最終面接に至るもの内々定を得られず、長期化を余儀なくされる学生の二極化傾向が同われます。企業の知名度にこだわったり、特定の業種に偏った就職活動を行ったことで苦戦するケースも見受けられます。最終的に消費者の目に触れない企業であっても業績を伸ばし、発展している企業は数多くあります。就職活動が長期化した学生も就職活動を進めるうちに自分に合った企業を見る視点が定まり、最終的には満足いく就職先を決定しているケースが多くあります。目先の企業選びではなく、自分自身がどのような道を歩みたいのか、就職活動を行うにあたってまずは考えてほしいことです。2014年3月に卒業した本学学生の就職活動を終えてのアンケート調査によりますと、先輩達の反省点として、応募先選択段階での反省点として「知名度にこだわらすぎた」が1位で「職種にこだわらすぎた」「勤務地にこだわらすぎた」と続いています。面接試験段階での反省点としては、「志望動機があいまい」「自己分析が不十分」「自己PRの不足」「SPI、一般常識の勉強不足」が挙げられています(左頁参照)。

企業の求める人材

それでは、企業はどのような人材を求めているのでしょうか。経済産業省が、職場や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っている

●文系男子◆「縁が無かった。」で終わらせる就職活動にはしないでください。その為の第一歩は本気で好きだ!と思える企業に出会うことだと思います。社風、自己実現、福利厚生、事業内容:きつかけは何でも結構です。何が何でもその企業に入って活躍したい!という思いや入社後のビジョンが就職活動におけるモチベーションの原動力になります。(経済)◆企業によって働き方や環境はそれぞれ異なります。自分の性格や学生生活を振り返り、職種や仕事で関わる相手、職場の雰囲気、将来の家庭像などをよく考えることが大切です。エントリー数が多ければいいという問題ではないので、周りの大人や友人と相談、協力しながらも、自分で取捨選択して自分の力で就活に取り組んでください。(スポーツ健康科学)◆少しでも興味のある説明会やセミナーには、積極的に足を運んで参加してほしいです。就職活動中は、辛いことがたくさんあると思いますが、たくさんの人と出会える、本当に貴重な期間です。この期間の過ごし方で人生が変わると思うので、後悔のないように頑張ってください。(商)●文系女子◆エントリーシートや面接、グループディスカッションは、実践経験や場数がかかるといいます。就職活動が始まる前から、それらを実践できる講座に参加したり、何枚もエントリーシートを書いて人に見てもらおうなど、事前にできる準備は全てしておきましょう。(心理)◆就活を進める過程で不安や焦りは必ず出てくると思いますが、一人で抱え込まず、周囲の友人

今年度就職活動をした

先輩からのメッセージ

(2014年度 就職に関するアンケート)がら

く上で必要な基礎的な能力を「社会人基礎力」として提唱しています。「前に踏み出す力(アクション)」、「考え抜く力(シンキング)」、「チームで働く力(チームワーク)」の3つの基礎的な能力から構成されると定義付け、その3つの能力を主体性、働きかけ力、実行力、課題発見力、計画力、創造力、発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力の12の要素に区分してあります。この12の要素のうち最も重要だと考えられる要素として、企業は「主体性」と「実行力」を挙げています。日本経団連が実施したアンケートによりますと、企業が選考時に重視する能力の1位は9年連続で「コミュニケーション能力」でした。このアンケートは、5

択での回答なので、各企業が求める能力の1位が「コミュニケーション能力」ではなく、複数回答の際に「コミュニケーション能力」を選ぶ企業が多かったということです。2位以下は「主体性」、「チャレンジ精神」、「協調性」と続いています。企業が新卒の学生に求める力の平均値は、「コミュニケーション能力を有しつつ、自ら主体的に行動し、実行する力」と集約できるでしょう。グローバル化が進展する中で、語学力を評価する企業が増えています。単に語学が得意だけでは評価されません。社会人基礎力を備えた上での語学力です。

充実した学生生活を

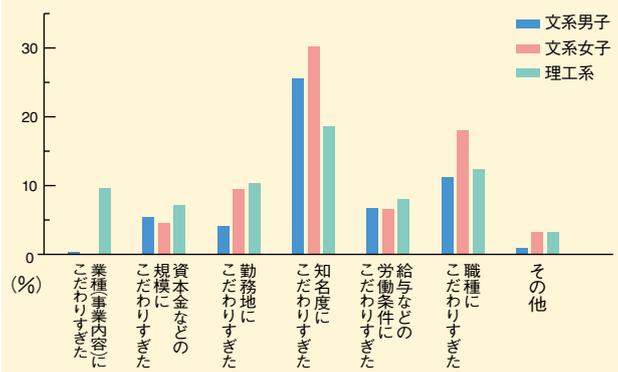
社会人基礎力を身につけるためには、何事にもチャレンジすることが大切です。授業はもとよりクラブ・サークルやボランティア活動あるいはアルバイトを含め、自分の興味・関心のあるものを見出し、それに真剣に取り組み達成感を味

わうこと、失敗や挫折を経験することが一回りも二回りも自らを成長させます。そしてそのよきな行動をとる中で、自ずと社会に向ける目も広がり、多くの人と関わることで「人間力」が磨き上げられます。様々な経験を積み重ねることが卒業後の人生を豊かにするとともに、そのよきな過程でいろいろな気づきをして成長した学生に企業は魅力を感じ、結果として、就職活動における評価にも繋がります。漫然とした日々を送るのではなく、常に何かにチャレンジする充実した学生生活を送ってほしいと思います。

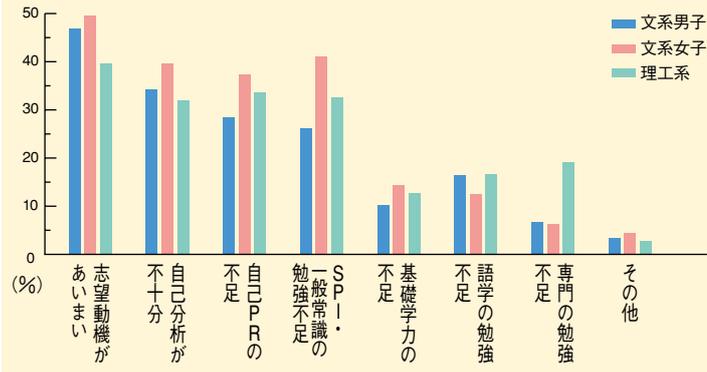
来年度就職を目指す皆さんへ

皆さんが就職する目的は、「社会での自立」、「社会参加による貢献」、「能力を生かした自己実現」ということになると思います。そのためにはまず、自分自身を知ること(自己理解)が就職活動の第一歩となります。そして自分のやりたいことがどのような職業で実現できるのか、自分の力がどのように職場で発揮できるのか考えてください。それを考える手段として、OB・OG訪問や企業セミナーへの参加などで幅広く情報を収集することが大切です。そして業界・企業研究を経て、自分のやりたい職業、働きたい企業を見出し、業務内容をよく調べ、「自分はどの会社でどのように働きたいか」を話せるようにしておくことがポイントです。採用担当者は、面接などのやりとりから、熱意、主体性、コミュニケーション能力、問題意識や行動力を見極め、一緒に仕事をしたい人物かどうかを判断するからです。皆さんにとって魅力ある企業は必ず発見できるはず。自分を信じて前向きに就職活動にチャレンジしてください。

応募先選択段階での反省点



面接・試験段階での反省点



や先生、キャリアセンターの職員さんなどと話せる人には話を話してください。不安を口に出すことで気が楽になりますし、自分の考えも整理されていきます。(グローバル・スタディーズ研究科) ◆まず自分を好きになること。自信を持つことが大事かと思えます。また、信用できる友人や先輩からの情報は大事にしてください。就職活動生はライバルでもありますが何より仲間です。協力し合って頑張ってください。(商) ●理系男子 ◆「何をしたいのか?」ということを常に問いながら就職活動を進めました。私は「自動車業界」自分の専攻が活かせるか」という2本の軸を持って就職活動をしました。自分のしたいことが見つかったら、それができる会社を探する必要があります。そのためには業界研究や企業研究が必要になります。調べたり、探したりすることは様々な方法がありますし、時間もかかりません。何事も早め動き始めることをお勧めします。(理工学研究科) ◆「理系だから研究職、文系だから営業」というように固定概念にとらわれることなく、自分自身が興味を持ったことなら、文理の垣根を越えてチャレンジするべきだと思います。(理工) ●理系女子 ◆興味のある企業には時間の許す限り足を運ぶことをお勧めします。インターネットの情報のみでは、自分に合った企業かどうか見極めることが難しいです。第一志望の企業に関しては学校推薦の有無も要件チェックです。(理工) ◆自分の研究内容を分かりやすく説明することを徹底すべきだと感じました。また、「他社ではなく、その会社でしかできないこと」を発見することも大切であると感じました。(生命医科学研究科)



JMOOC講座

「アメリカ映画と政治」の

受講受付が 始まりました!

村田学長によるJMOOC講座「アメリカ映画と政治」の受講受付が始まりました。JMOOC(Japan Massive Open Online Courses)は、2012年にアメリカで複数立ち上がった「オンラインで公開された無料の講座を受講し、修了条件を満たすと修了証が取得できる」MOOCという教育サービスの日本版で、2014年4月から開講されています。



映画におけるヒロイズム、アメリカ政治が求める大統領に対するヒロイズムの共通性などから、大統領はたびたび映画のテーマになります。また、映画にはしばしば、直接的・間接的に政治的なメッセージがこめられているものです。

本講座では、「アメリカ映画と政治」について議論して

いきます。大衆文化としての映画が近現代の社会や政治をどう描いてきたのか、あるいは、政治が映画をどう利用してきたのかという両者の相互作用を、具体的に映画を取り上げながら検討し、様々な視点から議論を深めていきます。

また、映画が戦争をどう描いてきたのか、国際政治学の視点から戦争と政治に対する理解を深めるとともに、映画にこめられた政治的なメッセージとその背景について考えていきます。

最後に、映画を政治学的視点も取り入れて鑑賞する楽しみ方、政治と映画の関わり方による見方の違いなどについて共有します。

受講に関する詳細はJMOOC講座公式ページ(<http://www.jmooc.jp>)からご覧ください。

(同志社大学広報課)

同志社ハリスフォーラム2014

「クルマの未来を支える

情報通信技術」

9月19日、京田辺校地に131人の参加者を迎え、「同志社ハリスフォーラム2014」を開催しました。本フォーラムは理工学部の前身であるハリス理化学校開設に由来し、科学の進歩・普及を目的として毎年開催しています。

今年、世界各

国において産官学が結集して研究が活発化しつつある、先進安全運転支援や自動運転に不可欠な情報通信技術に焦点を当て、「クルマの未来を支える情報通信技術」と題してフォーラムを実施しました。

佐藤健哉理工学部教授は「安全運転支援の新

たなカタチ」と題し、センサや通信から得られたデータを統合管理し、分散した複数のアプリケーションから統合化データを利用するアプリケーションについて解説し、それに基づく安全運転支援システムの研究や平成26年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の研究概要について紹介しました。

加藤真平名古屋大学准教授は「自動運転とコンピュータサイエンス」と題して、自動運転の研究動向とコンピュータサイエンスの観点から要素技術を解説しました。未来のクルマを、移動するスーパーコンピュータと捉える計算機科学的な視点



は極めて興味深く、かつ野心的なものでした。

菅沼直樹金沢大学講師は「金沢大学における自律型自動運転自動車の開発事例」と題して、自動運転自動車「移動ロボット」の立場から金沢大学にて開発中の自律型自動運転自動車のコア技術について解説しました。

モーターショーや技術展示会などでのデモンストレーション実績のある自律型自動運転自動車の技術は説得力がありました。

株式会社豊田中央研究所の内藤貴志氏は「車載センサによる環境認識」と題して、予防安全システムのための車線検出・運転者の顔向き検出・歩行者検出などの走行環境認識技術及び高度運転支援システムのための技術について解説しました。

株式会社ZMPの谷口恒氏は「自動運転とコネクテッドカー」と題して、

ZMP社の自動運転プラットフォームの要素技術と自動運転システムの構成例を分かりやすく解説しました。合わせて常時インターネットに接続されていることを前提としたコネクティッドカーの応用展開について紹介しました。

デモ展示では、金沢大学で開発された自律型自動運転車両の展示、ならびに昨年度同志社大学に導入されたロボット・カーの展示及びドライビング・シミュレータのデモ紹介を行いました。各講演者の未来のクルマに向けた刺激のかつ野心的な講演に対し、参加者からも活発な質疑が続き、4時間半があつという間に経過しました。

(同志社ハリスフォーラム実行委員会)

安中・会津キャンプを 開催

同志社ゆかりの場所と人物を訪ね、同志社スピリットを感じ、学ぶことを目標とする「安中・会津キャンプ」を9月10～12日に開催し、12人の学生が参加しました。出発前のミーティングで、キャンプ中の企画等を練り上げるうちに学生間の結束も徐々に固まり、キャンプ当日を迎えました。

初日、山下智子新島学園短期大学准教授による講義で、今回のキャンプと新島

襄・八重の旅の足跡が重なることを再認識しました。また、短大では、本学及び同志社女子大学に来年度編入学予定の学生4人と本学学生が交流する機会もあり有意義な時間を過ごしました。その夜は、同志社校友会群馬県支部の皆さま、新島学園の先生方にもご

出席いただき交流会を開催しました。学生は出席者から当時の学生生活の話や会への感謝を語り、親睦を深め、会のしめくくりには出席者全員でカラオケセッションを熱唱しました。

2日目、岩間秀彬新島学園

中学校・高等学校校長の学校紹介に続き、施設見学へ行きました。その後は新島家旧宅、有田屋、安中

教会を見学する中身の濃い時間を過ごし、4時間超のバス移動を経て会津若松に到着しました。夕食後、翌日の見学先に関するプレゼンテーションを行い、長い一日を終えました。

最終日、山本覚馬・八重生家跡地、鶴ヶ城を見学し、会津若松教会で今回のキャンプでの学びを振り返り、共有した後、山口和憲牧師による閉会礼拝をもってプログラムは終了しました。キャンプを終えた学生からは「卒業後長い年月を経



ても、同志社や新島襄の精神を大切にすることを卒業生の姿に感動した」などの感想が聞かれ、各々充実した学びの時を過ごした3日間でした。

(キリスト教文化センター)

平成26年 司法試験合格者発表

9月9日、本年5月に実施された司法試験の合格者が発表されました。本学司法研究科(法科大学院)修了者の合格

者は26人でした。法科大学院別の合格率では第24位であり、西日本の私立大学の中では第1位となりました。これにより累積合格者数は428人、累積合格率は45.1%となり、ともに西日本の私学では第1位です。この成果は、日頃の厳しい勉学に励んできた修了生の皆さんの努力とそれを支えてきたスタッフの尽力の賜と言えます。合格者の皆さんを心から祝福するとともに、本学で身に付けた学識を糧とし、「良心を手腕に運用する」法曹として、世のため、人のため、存分に活躍されることを期待しています。

9月20日には、合格者祝賀パーティーを挙行了しました。パーティーでは真山達志副学長も出席し、祝辞を述べました。その後、合格者全員の名前が読み上げられ、合格者代表者の挨拶を経て、合格者にとって栄えあるひとときとなりました。

法科大学院を取り巻く環境は、引き続き厳しい状況にあるが、今後とも、同志社の精神である良心教育のもと、その薫陶を受けた法曹を一人でも多く輩出できるように、教職員一同、力を尽くして在学生及び修了生の指導に当たりたいと思っております。本学の皆さま方には日頃のご支援に心よりお礼申し上げますとともに、今後ともご理解とご助力を賜りますようお願い申し上げます。

(司法研究科)

同志社大学 客員教授リレー講座 開催

グローバル人材育成の一環として日本人のアイデンティティを考えることを目的に、伝統文化を継承する客員教授を迎えて特別講座を開催いたします。

● 12月19日(金) 13時10分～14時40分

【講師】茂山あきら氏(大蔵流狂言師)

【講座名】狂言というお芝居

【会場】同志社大学クラーク記念館チャペル

(京都市上京区今出川通烏丸)

【募集人数】50名(在学生)

【応募締切】12月5日(金)必着

※同志社大学ホームページよりお申し込みください。

【お問い合わせ先】同志社大学広報課

TEL..075・251・3120

● 11月11日(火) 13時10分～14時40分【終了】

【講師】千宗室氏(茶道裏千家十六代家元)

【講座名】茶の湯

● 12月3日(水) 13時10分～15時10分【申込期間終了】

【講師】池坊由紀氏(華道家元池坊次期家元)

【講座名】いけばなにおける自然観と美意識

● 12月9日(火) 14時55分～16時25分【申込期間終了】

【講師】井上八千代氏(京舞井上流五世家元)

【講座名】京舞について

● 12月10日(水) 13時10分～14時40分【申込期間終了】

【講師】金剛永謹氏(能楽金剛流二十六世宗家)

【講座名】能への誘い

● 12月12日(金) 13時10分～14時40分【申込期間終了】

【講師】千宗員氏(茶道表千家若宗匠)

【講座名】茶の湯のこころ

本学教員の執筆図書紹介

(図書館調べ(価格は税別))

実践ペルソナ・マーケティング

高井紳二編 高井紳二他著
日本経済新聞出版社 2,000円

文学で考える(日本)とは何か

西川貴子 他著 双文社出版 1,900円

ソーシャルワーク

黒木保博 他編著 中央法規出版 1,800円

高等学校学習指導要領解説 福祉編 3版

黒木保博 他協力 海文堂出版 571円

判例講義 刑法1 総論 第2版

奥村正雄 川崎友巳 川本哲郎 十河太郎
松原久利 他著 悠々社 3,300円

マテリアルズ国際取引法 第3版

高杉直 他編著 有斐閣 3,000円

ベシツク条約集 2014年版

坂元茂樹 他編 東信堂 2,600円

会計学の基本 第2版

志賀理 他著 森山書店 2,300円

スポーツ六法 2014

川井圭司 他編 信山社 2,500円

現代イギリス政治 第2版

力久昌幸 他編著 成文堂 2,400円

介護サービスマネジメント

久保真人 他著 ナカニシヤ出版
2,500円

18歳からはじめる民法 第2版

野々村和喜 他著 法律文化社 2,200円

企業コンプライアンス

齋藤憲道 他著 尚学社 5,000円

くらしのなかの文化・芸術・観光

井口貢 著 法律文化社 2,600円

流着の思想 —「沖縄問題」の系譜学

冨山一郎 著 インパクト出版会 3,000円

中国経済はどう変わったか

厳善平 他著 国際書院 4,800円

労災補償とメンタルヘルス

西村健一郎 他著 信山社 3,200円

基礎トレーニング倒産法

金春 他著 日本評論社 2,700円

2014年戦後最大級の 経済危機がやって来る!

浜矩子 他著 東洋経済新報社 1,500円

新・通貨戦争

浜矩子著 朝日新聞出版 760円

円安幻想

浜矩子著 PHP研究所 840円

製配販をめぐる対抗と協調

崔谷薫 他著 白桃書房 3,000円

民主主義の文法 新装版

立木茂雄 監訳 朝書房 1,600円

自由への容易な道はない

峯陽一 監訳 青土社 2,400円

社会福祉学事典

上野谷加代子 他編著 木原洋信 空閑浩人
黒木保博 永田祐 他著 丸善出版 20,000円

日米関係史研究の最前線

森靖夫 他著 関西学院大学総合政策学部
3,000円

ベシツク経済学

— 独占禁止法入門 第4版

瀬領真悟 他著 有斐閣 2,000円

災害の物語学

林以知郎 藤井光 他著 世界思想社 3,500円

日本列島人類史の起源

松藤和人 著 雄山閣 2,800円

日本語と英語でまなび企業分析入門

古賀智敏 著 千倉書房 2,800円

内航海運

石田信博 他著 晃洋書房 2,300円
 イスラーム世界の挫折と再生
 内藤正典 編 内藤正典 他著 明石書店
 2,800円

紫式部集からの挑発

廣田收 他著 笠岡書院 5,500円

ソローとアメリカ精神

白川恵子 他編著 金響堂 4,500円

変容する華南と

華人ネットワークの現在

日野みどり 他著 風響社 6,000円

日本キリスト教社会福祉の歴史

木原浩信 他編著 ミネルヴァ書房
 5,500円

政治哲学と現代

岡野八代 他著 岩波書店 3,200円

論点体系 金融商品取引法 1

船津浩司 他著 第一法規 4,800円

大コンメンタール刑法第7巻

第3版

古江頼隆 他著 青林書院 7,300円

比較文化学の地平を拓く

山内信幸 荒井美幸 他著 開文社出版
 3,800円

メディアリテラシーとデモクラシー

渡辺武達著 論創社 1,800円

正義への責任

岡野八代 他訳 岩波書店 3,900円

体育・スポーツ指導者と

学生のためのスポーツ栄養学

海老根直之 他著 市村出版 2,700円

スポーツ指導者に必要な生理学と

運動生理学の知識

井澤鉄也 他著 市村出版 2,600円

日本古典対照分類語彙表

石井久雄 他編 笠岡書院 9,000円

持続可能な地域実現と大学の役割

新川達郎 他著 日本評論社 3,000円

セクシュアリティの戦後史

菅野優香 他著 京都大学学術出版会
 4,000円

持続可能な都市再生のかたち

新川達郎 他著 日本評論社 3,000円

フランスに学ぶ男女共同の子育てと

少子化抑止政策

川口章 他著 明石書店 2,800円

日本をめぐる安全保障

これから10年のパワー・シフト

浅野亮 他著 亜紀書房 2,500円

トランスナショナル高等教育の

国際比較

山田礼子 他著 東信堂 3,600円

再び大阪がまんが大国に甦る日

竹内長武 他著 フレーンセンター 2,000円

集团的自衛権の何が問題か

岡野八代 他著 岩波書店 1,900円

商法法の新しい礎石

船津浩司 他著 有斐閣 19,000円

基礎粉体工学

日高重助 他編 日高重助 下坂厚子
 白川善幸 他著 日刊工業新聞社 3,200円

薩摩・朝鮮陶工村の四百年

小川原宏幸 他著 岩波書店 3,600円

教育法の現代的争点

大島佳代子 他著 法律文化社 3,800円

機関(3) 会社法コンメンタール9

伊藤靖史 森本滋 他著 商事法務 5,500円

属性叙述の世界

沈力 他著 くろしお出版 3,800円

高度マンマシニングインターフェイスと 情報技術の応用展開

渡辺好章 三木光範 力丸裕 辻内伸好 横川隆一
 小泉範子 笹岡秀一 鋤柄俊夫 吉岡進三 他著
 シーエムシー出版 65,000円

法実証主義の現代的展開

濱真一郎著 成文堂 4,200円

技術を活かす経営

高井紳二編 高井紳二 他著
 同志社大学技術企業国際競争力研究センター
 寄贈(金額記載なし)

植民地化・デモクラシー・再臨運動

原誠 他著 教文館 2,500円

基礎から学べる会社法第3版

釜田薫子 他著 弘文堂 2,500円

旧石器が語る「砂原遺跡」

松藤和人 他著 ハーベスト出版 1,200円

先端複合材料の開発とその応用

青山栄一 他著 同志社大学複合材料研究センター
 寄贈(金額記載なし)

医工学研究の新展開

平成17年度 研究成果報告書

医工学研究の新展開

平成18年度 研究成果報告書

医工学研究の新展開

平成19年度 研究成果報告書

医工学研究の新展開

平成20年度 研究成果報告書

医工学研究の新展開

平成21年度 研究成果報告書

医工学研究の新展開

平成22年度 研究成果報告書

医工学研究の新展開

平成23年度 研究成果報告書

医工学研究の新展開

平成24年度 研究成果報告書

医工学研究の新展開

平成25年度 研究成果報告書

医工学研究の新展開

平成21年度 研究成果報告書

先端複合材料の開発と その応用(CD-ROM)

青山栄一 他著 同志社大学複合材料研究センター
 寄贈(金額記載なし)

界面微細構造制御により発現する 物性の評価研究(CD-ROM)

森康維 他著 同志社大学界面現象研究センター
 寄贈(金額記載なし)

美の中断

村上真樹 著 晃洋書房 2,800円

近現代イギリス小説と「所有」

南井正廣 他著 英宝社 2,000円

西洋政治思想資料集

岡野八代 他著 法政大学出版局
 3,200円

行政法の争点

佐伯彰洋 佐伯祐二 横田光平 他著
 有斐閣 2,900円

入門説話比較の方法論

廣田收著 勉誠出版 4,800円

文学史としての源氏物語

廣田收著 武蔵野書院 11,000円

社会福祉と人権

木原浩信著 ミネルヴァ書房 2,400円

市民生活と法第4版

田井義信 他著 法律文化社 2,300円

金融商品取引法コンメンタール2

川口恭弘 船津浩司 他著
 商事法務 12,000円

「次世代」ヘルステック機器の新製品開発

仲野英治 小山大介 他著
 技術情報協会 95,000円

Actualmente, la industria energética se enfrenta a varios problemas y oportunidades de crecimiento. La disponibilidad de recursos energéticos, la tecnología para procesarlos y distribuirlos, su impacto en el ambiente, y las políticas para su regularización, son factores que deben ser estudiados en conjunto para lograr que todos tengan acceso a este servicio de forma estable, sustentable, y económicamente alcanzable. La Universidad de Doshisha me ha permitido investigar en un ambiente en donde el avance científico está estrechamente ligado al desarrollo social. Mi estudio se enfoca en el diseño de micro-redes eléctricas con energías renovables para zonas marginadas en donde es difícil obtener electricidad. La industria energética Japonesa no sólo es líder en desarrollo, si no que participa activamente en asistencia internacional para países en desarrollo. En el futuro me gustaría ser parte del desarrollo de esta tecnología, para crear productos más accesibles y fáciles de implementar en zonas con recursos limitados.

Durante mi estancia en Japón he tenido la oportunidad de convivir con personas de culturas diferentes pero objetivos similares. Mi mensaje para los estudiantes de esta universidad es que ellos también convivan con estudiantes extranjeros y que escuchen sus razones para venir a Japón y sus impresiones del país y su cultura.

Jorge Lamas

エネルギー問題は、世界の抱える大きな課題です。現在、エネルギー関連企業では、様々な開発が行われており、ビジネスチャンスとしても捉えられています。エネルギー問題を考える際、安定的かつ持続可能な資源、発電技術の開発のみならず、環境に与える影響や国家のエネルギー政策など総合的に学ぶ必要があります。同志社大学には、これらを同時に視野に入れた研究ができる環境が整っていると思います。

日本は、エネルギー開発分野での先進国であるのみならず、国際援助にもこれらの技術を積極的に用いています。私の研究は、送電が困難な地域にも導入できる、再生可能エネルギーを使用したマイクログリッドの設計をすることです。私も将来、資源が限られた地域でもより簡単に導入できる技術の開発に携わり、国際協力に貢献できたらと考えています。

日本に来てから、異なる文化的背景を持っていても、同じ目標や思いを共有できる人々に出会う機会を得ました。日本人の学生には、いろいろな国から来た留学生と交流して、彼らが日本に来ようと思ったきっかけや日本に対する印象など積極的に聞いてもらいたいです。

ラマス・ホルヘ

2014.4～理工学研究科機械工学専攻（メキシコ出身）

清水 春生さんに聞く



インタビュー

宇野 正真さん

〔理工学部機械システム工学科 4年次生〕

宇野 ● 私が関わっているフォーミュラプロジェクトにご支援をいただいでいて、大変ありがたいと思っています。

清水 ● 当社の設備や技術を使って、大会ではぜひいい結果を残してくれるよう期待しています。卒業生の一人としても、同志社大学には頑張ってもらいたいですからね。

宇野 ● 清水社長は同志社大学でどんな学生生活を送られたのですか。

清水 ● 私は大学時代軽音楽部に所属し、マネージャーをしていました。その中で一番思い出に残っているのは、1969年、日本の学生では初めてアメリカへ演奏旅行に行ったことです。その時、企画から実行までを担当したのです。日本航空、アメリカ領事館、大阪・京都・神戸・名古屋の各市、当時の文部省や外務省、1970年に開催されることになっていた大阪万国博覧会の協会まで、手分けして足を運びました。公演を成功させるためには、まず英語ができないといけません。英会話学校などには行かず、テープを聞いて必死で勉強しました。たくさんの人たちに助けていただきましたし、その時に経験したことは今も私の大きな力になっています。

今回の同志社人

しみず はるお
清水 春生さん

【1969年 法学部法律学科卒業】

1947年生まれ、大阪府出身。1970年大金製作所(当時)入社。1977年ダイキンラッチUSA副社長、ダイキンラッチコーポ(米国)社長、1991年国際部長を経て1994年取締役就任。1996年営業本部長、1999年常務、2002年専務、2006年に代表取締役社長に就任し、現在に至る。

宇野 ● 卒業後はどのように歩んでこられたのですか。

清水 ● 1970年、社員が11人の小さな大阪の商社に入りました。10カ月だけでした。その後エクセディに入社。入社後すぐに、軽音楽部のアメリカ公演でお世話になったカリフォルニア大学バークレー校のバンドの来日に合わせ、交歓演奏会を開催しました。万博会場のお祭り広場などで演奏してもらうためのアテンドや関西でのホームステイ先の手配など、入社してわずか2週間しか経っていませんでした。にもかかわらず、特別休暇をもらって奔走しました。

宇野 ● 大学時代だけでなく卒業してからも凄い活躍をされたんですね。そういう体験は現在の会社に入ってからのお仕事にもつながっているのでしょうか。

清水 ● 私が入社した当時は大金製作所と



いう社名でしたが、最初から海外関係の仕事をしました。当社がつくっている自動車用クラッチの輸出です。そして、入社して2年半後にはアメリカ駐在の辞令が出て、現地でビジネスを抜げていくミッションを与えられました。シカゴをスタートに、その後ロサンゼルスに移動。アパートを借りて、アフターマーケット向けに部品を売り込んでいったのです。その時私はまだ26歳。全くゼロからのスタートでした。アメリカ、カナダのほか、中南米の国々にも出かけて行きました。当社の誰も行ったことのない国ばかりですから、コネクションもありません。ロサンゼルスにある各国の領事館に行き、領事さんに現地の自動車関係の経済人を紹介してもらうことから始めました。ジャマイカを訪れた時などは、現地の新聞に「日本のエンジニアが来た」と大きく取り

上げられたこともありま。全くエンジニアなどではなかったのです(笑)。アメリカには最初1973年から77年までの4年間いてカリフォルニア州法人をつくり、いったん日本へ帰ってきてからブランド輸出交渉などを担当。その後、今度当社の工場や合弁会社の工場をつくるということで、1983年から89年までの6年間アメリカに駐在しましたから、海外生活はトータルで10年になります。

宇野 ●一人で未知の市場を開拓していかれたわけですから、ご苦労もいろいろあったと思いますが。

清水 ●まず言葉がわからない。あいさつ程度のスペイン語はできま

したが、電話をかけてもすぐに切られて終わり。どれだけ砂を噛む思いをしたかわかりません。

宇野 ●そもそも人社間もない社員がどうして一人で海外に派遣されることになったのでしょうか。

清水 ●私は4代目の社長ですが、当時は創業者の足立一馬氏が社長でした。大学時代にアメリカへの演奏旅行を企画、実行したことや、カリフォルニア大学のバンドを呼んできた経験が、足立社長に見込まれたのではないのでしょうか。実際、今自分が社長になってみると、そういう人間がいたら絶



対行かせています。成功する保証はありませんが、やらせてみたいと思うでしょうね。

宇野 ●清水社長にとって、海外の魅力はどんなところにあるのですか。

清水 ●魅力と言っているのはわかりませんが、日本は国の生業として海外との関係をしっかり築いてやっていかないといけないと思っています。私はこの会社に入った時23歳でしたが、「なぜこの会社に入社したいのか」と聞かれて、「日本を豊かにしたい」といけなから」と答えました。当時は1ドル360円の時代です。その時代にアメリカへ行って、日本との差を痛感

しました。貿易で日本を豊かにしないといけないと思ったのです。国も企業も成長していかないとダメです。成長するという目標があるから、みんな努力をし、チャレンジする勇氣も湧いてくるのです。私は今もグループの社員には、常にチャレンジしようと言っています。

宇野 ●現在、世界23カ国に41社の事業会社を展開されていますが、それらを統括していくにあたって、社長ご自身が信条とされているものはありますか。

清水 ●「この会社で働いてよかった」全ての社員がそう思えるようにすることが私



の信条です。そのために会社としてできることは全てやっていきます。例えば、女子のサッカーや卓球、フォーミュラカーレースなどのスポーツ支援です。私たちのビジネスはB to Bであり、コンシューマープロダクツではありません。会社名が知られる機会が少ないので、スポーツを支援し、選手活躍を通じて知ってもらうことは大きいのです。知名度が上がることは、社員がこの会社においてよかったと思える大切な要素のひとつです。

宇野●社長の生き方に同志社大学という存在はどういう影響を与えていますか。

清水●私の心の中の礎となっているのは、新島襄の「良心の全身に充滿したる丈夫の起り来らん事を」という言葉です。エクセディではこういう人を「火の玉人間」と呼んでいます。実際、一人で海外を何日も回った時などは、その言葉が支えになりました。一人は全く無力ですが、決して詭弁を弄してはならない。良心を持って真実のみを語れば、困難な道も開けていく。私自身、身

をもって何度そんなことを経験したかわかりません。

宇野●私は働くならキャリアアップを目指したいと考えているのですが、そのためにはどういう考え方、目標のたて方が必要ですか。

清水●私は35歳の時、5年先の海外戦略を自分でつくりました。会社から言われ

たわけではなく、5年先にこの会社をどういうふうに持っていくかを考えたのです。その通りにやっていったら、実際にそうになりました。ですから、自分ならこの会社をこういうふうに変えていくということを書いてみることで、もう一つ、自分が通り過ぎてきた道程の中で、これだと思うものは残しておくこと。私はアメリカに演奏旅行に行ったことなど、大学時代から現在ま



で、皆さんに説明できる程度のもものは残しています。これは何十年か後に必ず役に立ちます。

宇野●最後に、後輩の学生に対してアドバイスをお願いします。

清水●元気のある面白い会社に入り、そこで思う存分腕を振るってください。そして、

10年単位の大きな流れをよく読んで、その会社に入ってよかったと思うことが大事。私はこの会社に入って本当によかったと思っています。私が入った時は今の70分の1ほどの規模しかありませんでしたが、その会社がここまでできたのです。

宇野●本日は貴重なお話を伺うことができ、とても参考になりました。どうもありがとうございました。



INTERVIEWER

うのしょうま
宇野 正真さん

理工学部機械システム工学科 4年次生

滋賀県出身。2年次の9月から3年次夏まで「同志社大学フォーミュラプロジェクト(D.U.F.P)」のプロジェクトリーダーを務める。今年9月2～6日に開催された「第12回全日本学生フォーミュラ大会」では、2012年以来3年連続総合成績3位に。卒業後は大学院に進学し、人工の眼球についての研究を行っていく予定だ。

キャリアアップのために、数年後の“未来設計図”を

お話を伺って自分との差がすごくあるのに気付かされました。規模が大きすぎて想像の範囲を超えていることも少なくありませんでしたが、一番驚かされたキャリアアップの仕方はとても勉強になりました。私も何年か先の自分のプラン、設計図を書いてみようかと思っています。将来については、学部で学んだ自動車関係か、あるいはこれから大学院で研究する医療関係か、進む道をまだはっきりと決めているわけではありませんが、機械系でモノづくりや研究をするということにはこだわっていきたい。プロジェクトリーダーの経験の中で、苦勞することもありましたが、ある程度の成果を収めることもできたので、清水社長のお話を参考に、最終的には人をまとめる立場に立てれば、とも思っています。

「上勝町を100年後まで残す」。 それが自ら創った 自分自身の役割。

就職した大手電機メーカーを辞めて上勝町に来たのには2つの理由があります。1つは、大きな組織の中で自分の役割を見つけないより、自分自身で新しい役割をつくってみたいという気持ちがあったからです。もう1つは、富が一極集中しているような大都市で、一定の枠の中で生きることへの違和感です。上勝町は徳島県の山間にある小さな町ですが、「いろどり」の葉っぱビジネスやゴミや無駄を出さない「ゼロウェイスト」運動で知られ、日本だけでなく世界から注目されています。そんな場所で自分のできる新しいことがあるのではないかと思ったのです。

こちらへ来たのが2011年11月。町が国の助成を受け、過疎化が進む地域の問題を解決するため、新たな組織を創設。その職員として応募したのがきっかけです。その組織で活動する中で、そこに住む人たちの暮らしや考え方を学びました。そして、昨年4月に今の会社を3人の仲間と起業しました。会社のビジョンは、上勝町を100年後まで残すこと。それはどういうことなのか、私たちが考えているのは、上勝町を知って

る人、思い入れを持って関わってくれる人を少しでも多くつくることです。上勝町を知り、体験して、好きになってもらう。そのために今、展開している事業がカフェ「ポールスター」の運営や、地元野菜などの特産品を販売するWEBサイトの企画・運営、各種のイベント開催などです。同時に、SNSにより、上勝町の情報を発信し、海外の人たちからもアクセスしてもらえるようにしています。それらのプロセスを経て、この町に関心を持ち、実際に来てくれた人の上勝町を肌で感じてほしい。そのための場所としてカフェがあり、次のステップとして滞在してもらうためのゲストハウスをつくりたいと考えています。

こうした私の価値観を育んだのが同志社大学の政策学部です。そこでは座学中心の講義だけではなく、実際の学びのフィールドは社会全般にあり、どこに問題があるのかを自分で発見し、それに対してどうアプローチをするかを考えていきます。私が政策学部を選んだのも、社会に出て自分で何かを起こすとき、やりたいことがあった

ときに必要な何かが身につくのではないかなと思ったからです。大手電機メーカーには3年間在職しましたが、その間も人と違うことをしたいという思いは持ち続けていました。しかし、何がしたいかは探して見つかるものではなく、自分で決めるしかありません。何ができるかではなく、何ができないか、何ができないかを考え、それを突き詰めていって、何がしたいか、それが終わります。自分が新しい何かをしたいと思ったら、自分でアクションを起こすしかない。その思いで、私は今もこの仕事に取り組んでいます。

松本 卓也さん

【2009年 政策学部卒業】

合同会社RDND(アール・デ・ナイデ) 共同創業者

大阪府出身。「自分の新しい役割を創る場所」として上勝町を選んだのは、奥様の輝実さんの故郷だったことから。輝実さんとは、海外インターンシップを運営する国際的な学生団体「アイセック・ジャパン」の活動で知り合った。2012年12月に会社を設立し、その1年後にカフェをオープン。店名の「ポールスター」(北極星)には「みんなが集える上勝の拠点に」の思いを込めた。そこでは今、「上勝を100年続かせるためにできること」をテーマに、100人の様々なジャンルの講師を招いて話を聞き、対話する「かみかつ100年会議」を開催。また、次の人材づくりのため、夜7時以降を子どもたちが集って勉強する「寺子屋」にも開放している。「次の世代にバトンを引き継いでもらわないと、100年後までは生きられませんからね」と笑う松本さん。自身の経験から、後輩には「自分の信じた道をまっすぐ進んで行けば、きっと助けしてくれる人が出てきます」とエールを送る。

モノづくりの現場で働きながら、女性が頑張る道を拓いていきたい。

小さな頃から憧れていた航空会社の客室乗務員を目指したのですが、私が就職活動をしていた年は契約社員の採用しかなく、断念しました。乗ることが無理ならつくる方があると思い、大好きな飛行機の部品をつくっている新日鐵住金に入りました。

現在、勤務している工場では、飛行機の脚部品と自動車のクランクシャフトを製造しています。そこでの私の仕事は生産ラインの管理。営業から上がってくる要望に沿って、既定の納期に合わせて決まった数量を製造するための生産・出荷計画を、自分で一からつくり出します。ラインに流せるものは一度に1種類ですから、納期に合わせていかに効率よく動かすかが問われます。昨年4月に入社し、7月にこの工場に配属され、8月からこの仕事を担当しています。責任は重いですが、周りのフォロワーが手厚く、困難なときには手助けしてもらえますので安心して取り組めます。

工場の仕事は面白く、嫌だと思ったことは一度もありませんが、本当にやりたいのは得意な英語を使える仕事。私は同志社国際中学校・高等学校の出身で、日本語を話すのとあまり変わらないくらい英語での会

話ができます。中学校・高等学校の6年間で3回留学を経験していますし、友だちの多くが帰国子女で日常的に英語を使う環境でしたから、自然と話すことができるようになったのです。大学時代には、帰国子女の小学生たちに英語を教えるティーチングアシスタントのアルバイトをして、英語力をさらにブラッシュアップすることができました。上司には海外駐在がしたいと希望を出していて、特に中東へ行きたいと思っています。危険なところと思われていますが、女性で駐在した人も今までいません。だからこそ行ってみたい。メイド・イン・ジャパンの優秀さを現地の人たちに、自分の言葉で伝えたいのです。

現在、このユニフォームを着てヘルメットをかぶり、工場の現場に向き、工程管理をしている女子社員は私一人。異邦人のように思われていますが、年配の社員の人たちは皆さんあたたかく、営業の方から厳しい言葉を投げかけられて悔しい思いをしていたときなど、「やっているところはちゃんと見ているから気にするな」と、お酒を飲みながら慰めてくれました。

最近では総合職採用における女子社員の

割合も増えてきています。結婚・出産して戻ってくるのでできる制度はあるものの、やはり結婚後は退職していく人が多いのが現実です。私は結婚して子どもを産んでも、またこの会社に戻ってくるつもりです。男性のイメージが強い今の職場で女子社員が結婚・出産を経験しても、もう一度復帰して働けるんだということを、周囲にわかしてもらえるように頑張りたいと思っています。

橋本 優子さん

【2013年 社会学部教育文化学科卒業】

新日鐵住金株式会社 交通産機品事業部製鋼所生産業務部工程室

奈良県出身。両親から「国際感覚を身につけなさい」と薦められ、同志社国際中学校へ進学。同中学校・高等学校時代にアメリカへ2回、フランスに1回留学したことから、英語ほどではないがフランス語も話せる。大学時代には神学部のアラビア語の講座を3年間履修した。中東駐在を希望するのは、それも理由の1つだ。教育文化学科では異文化心理学のゼミで研究。「私にとっては今いるところが異文化みたいなもの」と笑う。「社会人になるとお金はあっても時間がない」と先輩から聞かされていて、アルバイトでお金を貯め、大学の4年間でアジアやヨーロッパの約20カ国を旅した。後輩にも「学生時代に自分の行きたいところにはできるだけ行っておいたほうがいい」と薦める。仕事については「自分のやりたいことが100%叶うわけはありません。でも、どんな仕事でも自分でポジティブなところを見つけていくと、毎日楽しくなります」と、アドバイスをくれた。



●今出川金曜ランチタイム・チャペル・アワー (12:35 ~)

同志社礼拝堂
アドベント讃美礼拝 12月5日、12日
クリスマス礼拝 12月19日

●京田辺水曜チャペル・アワー (10:45 ~)

キリスト教文化センター集會室
アドベント讃美礼拝 12月3日、10日、17日
キリスト教文化センターラウンジ(夢告館西隣キリスト教文化センター建物内)
クリスマス礼拝 12月24日

●京田辺金曜ランチタイム・チャペル・アワー (12:35 ~)

キリスト教文化センター講座室
アドベント讃美礼拝 12月5日、12日
クリスマス礼拝 12月19日

●クリスマスイブ礼拝 12月24日(18:30 ~) 同志社礼拝堂

※同志社教会のクリスマス・イブ礼拝と共同開催。
会場の都合で、満員になりましたら、入場をお断りする場合がございます。予めご了承ください。

【お問い合わせ先】今出川校地キリスト教文化センター TEL:075-251-3320
京田辺校地キリスト教文化センター TEL:0774-65-7370

同志社 クリスマスキャンドルライトサービス

キャンドルの光のもと、皆さんで一つになって、イエス・キリストの誕生をお祝いしましょう。

【日時】12月23日(火・祝) 開場 17:30 / 開式 18:00
【会場】今出川校地 同志社栄光館ファウラーチャペル(女子大学・女子中高構内)
【主催】同志社クリスマスキャンドルライトサービス実行委員会
【後援】同志社中高・女子中高・国際中高・香里中高各宗教部
同志社大学キリスト教文化センター・同志社女子大学宗教部
【お問い合わせ先】同志社女子大学宗教部 TEL:075-251-4141

第50回全同志社メサイア演奏会

今年は記念すべき戦後の復活メサイア50回目です。クリスマスイブの夜、皆さまのご来場をお待ちしております!

【日時】12月24日(水) 開場17:00 / 開演18:00
【会場】京都コンサートホール 大ホール
【指揮】山下一史
【曲目】G.F.ヘンデル:オラトリオ「メサイア」
ソプラノ:松下悦子 アルト:福原寿美枝 テノール:小貴岩夫
バリトン:井原秀人 チェンバロ:井幡万友美 オルガン:大代恵
合唱:同志社メサイアコーア 同志社大学女声合唱団フルール
同志社グリークラブ メサイアシンガーズ
演奏:同志社交響樂團
【入場料】S席<事前座席指定> 2,000円 A席<事前座席指定> 1,500円
B席<当日座席指定> 1,000円
※B席のみ当日16:30より座席券交換

【チケット】
チケットぴあ TEL:0570-02-9999 <http://t.pia.co.jp> (Pコード243-945)
京都コンサートホールプレイガイド TEL:075-711-3090
同志社大学生協 京田辺ブック&トラベル TEL:0774-65-8376
良心館トラベル&サービス TEL:075-251-4433
※未就学児の入場はご遠慮ください。

2015年度
同志社ローム記念館プロジェクト募集

京田辺キャンパスの正門を入ってすぐ右手にある「同志社ローム記念館」では、IT・メディアテクノロジーを創造的に活用し、次世代の情報文化の新たな創造を担う人材の育成を目指して、課外活動によるプロジェクトを展開しています。

現在、2015年度に実施するプロジェクトテーマを募集しています。採択されると、活動費が付与される、プロジェクトルームを使用できるなど、1年間のプロジェクトを展開するにあたってのサポートを受けることができます。

あなたのアイデアをプロジェクトにしてみませんか?誰かに役立つものづくり、切磋琢磨できる仲間づくり、たくさんの経験を重ね有意義な1年を過ごしましょう。

詳しい募集要項やプロジェクト活動に関するお問い合わせは、ローム記念館webサイト(<http://rohm.doshisha.ac.jp/>)、館内設置の募集要項をご覧ください。

【2015年度プロジェクト活動期間】

2015年4月6日(月)~2016年3月15日(火)<予定>

【エントリー締切】2015年1月19日(月)17:00

【お問い合わせ先】ローム記念館事務局(京田辺校地総務課)
TEL:0774-65-7800

E-mail:jt-rohm@mail.doshisha.ac.jp

新島旧邸公開の再開について

新島旧邸の公開を再開します。2014年10月以降の開館日、見学方法及び申込み方法は、以下のとおりです。2012年9月~2014年3月に実施した特別公開と開館日、見学方法や申込み方法が異なります。

団体(10名以上)のみ、事前申込みが必要です。

【公開期間】①通常公開 2015年 3月3日~31日

毎週 火・木・土曜日(祝日は除く)

②特別公開 2015年 3月20日~22日(卒業式)

【公開時間】10:00~16:00 (入館受付は15:30まで)

【見学対象】①通常公開 旧邸周囲から建物内部を見学(建物内にはあがれません)

②特別公開 旧邸周囲及び建物内部(母屋1階と附属屋)に入場可

【入場料】無料

【団体見学申込】10名以上の団体は、予約が必要です。団体予約は、見学日の1週間前までに電話・FAX・E-mailにて下記の要領でお申込みください(電話受付は10:00~16:30)。

1. 見学希望日時、2. 見学代表者氏名、
3. 連絡先(住所、電話及びFAX番号がE-mailアドレス)、4. 見学人数

【団体見学申込・お問い合わせ先】

ハリス理化学館同志社ギャラリー事務局(日・月曜日、祝日は閉室)
TEL:075-251-2716 FAX:075-251-2736
E-mail:n-kyutei@mail.doshisha.ac.jp

留意事項

- ※特別公開時に、旧邸建物内を見学する場合、一度に入れる人数は20名程度とします。
- ※駐車場、駐輪場はありません。公共交通機関を利用してお越しください。
- ※バス自家用車でお越しの際には、各自で駐車場を確保してください。
- ※旅行社等が企画されるツアーのお申込みはお断りします。

【アクセス】京都市上京区寺町通丸太町上ル松蔭町
京都市営地下鉄「丸太町」駅から徒歩15分
京阪電車「神宮丸太町」駅から徒歩10分

ハリス理化学館同志社ギャラリー 第5回企画展「同志社と文学」開催について

同志社はこれまで多数の著名な文学者を輩出してきました。本展では、同志社の文学が生まれる素地を明治の同志社に探りながら、同志社と深く関わりを持った文学者について、また文学に描かれた同志社をゆかりの資料や作品から紹介します。

【期間】2014年10月15日(水)～2014年12月21日(日)

【閉館日】月曜日

【開館時間】10:00～17:00

【場所】ハリス理化学館同志社ギャラリー2階 企画展示室(今出川キャンパス)

【主催】同志社社史資料センター

【協力】同志社大学図書館

【関連イベント】

公開講演会：「小説と学び」 講師：澤田瞳子氏(歴史小説家)

【日時】2014年12月6日(土) 13:00～14:30

【会場】良心館地下2番教室

【お問い合わせ先】

ハリス理化学館同志社ギャラリー事務局(会期中は月曜日のみ閉室)

TEL:075-251-2716



WOT(ワット)＝"What's On Thursdays!"

「木曜日には何かがある!」を合言葉に、開講期間中の毎週木曜日、映画上映を中心に多彩なイベントを開催します。

【会場】寒梅館ハーディーホール

【料金】本学学生・教職員は全て無料/一般は有料

●12月4日(木) ポーランド映画祭2014 *詳細未定

●12月11日(木) 紙ふうせんクリスマスコンサート

【お問い合わせ先】エースプロモート TEL:06-6341-1171

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

*内容は都合により変更となる場合があります。詳細はお問い合わせください。



クローバーシアター

開講期間中の毎週火曜日、寒梅館のミニシアター・クローバーホールでは、映画史に残る名作を中心に様々なイベントを開催します。

【会場】寒梅館クローバーホール(地階)

【料金】本学学生・教職員は全て無料/一般は催しにより有料

●12月2日(火) ポーランド映画祭2014 *詳細未定

●12月9日(火) 映画上映 *詳細未定

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

*内容は都合により変更となる場合があります。詳細はお問い合わせください。

♪観に行こう聴きに行こう♪

—学生団体12月の活動予定—

【学内】

●12月3日(水) 喜劇研究会「お笑いライブ」

寒梅館 クローバーホール 13:00～14:30 無料

●12月5日(金)～7日(日) 同志社小劇場「奏稿・銀河鉄道の夜」

今出川 新町キャンパス 学生会館別館小ホール

5日 19:00開演 6日 13:30開演/18:00開演

7日 14:00開演 (各開演30分前開場) 無料

●12月13日(土) ゴスペルクワイヤー Joyful・Joyful「クリスマス・コンサート」
寒梅館 ハーディーホール 18:00～20:00 無料

●12月14日(日) 雅楽会「第21回定期演奏会」

寒梅館 ハーディーホール 17:30～18:50 (17:00開場) 無料

●12月19日(金)・20(土) 応援団「アトムフェスティバル2014」

寒梅館 ハーディーホール 16:00～ (15:30開場) 無料

●12月21日(日) ピアノ研究会「クリスマスコンサート」

寒梅館 ハーディーホール 15:00～ (14:30開場) 無料

【学外】

●12月7日(日) 応援団吹奏楽部「第45回定期演奏会」

京都府八幡市文化センター大ホール

14:00～ (13:30開場) 無料

●12月7日(日) グリークラブ「第110回同志社グリークラブ定期演奏会」

京都コンサートホール(大ホール) 14:00～17:00 (13:00開場)

S席2,000円(指定席)/A席1,500円(自由席)

●12月13日(土)・14日(日) 書道部「同志社大学・同志社女子大学連盟展」

健仁寺西来院、禅居庵

13日 10:00～18:00 14日 10:00～16:30 無料

応援に行こう!～体育会試合日程

開催日時等に変更されることがあります。

【柔道部】

●12月7日(日) 京都学生柔道段別体重別選手権大会

会場:京都産業大学第二体育館 9:30～

●2月11日(水) 京都府選手権大会

会場:武道センター(京都府) 10:30～

【水泳部】

●12月7日(日) 関西学生冬季公認記録会

会場:京都アクアリーナ 9:30～

【応援團】

●12月13日(土)・14日(日) 全日本学生選手権大会

会場:代々木体育館(東京都) 10:00～

第25回 同志社京田辺 クリスマス燭火讃美礼拝

クリスマスはキリストの誕生を記念し、全ての人が愛と信頼によって結ばれる未来を待ち望む祝祭です。キリストの希望を象徴するキャンドルライトの光のもと、ともにクリスマスの礼拝を捧げましょう。皆様のご来場をお待ちしています。なお、礼拝では手話通訳が行われます。

【日時】12月13日(土)

開場16:00 / 開始16:30 (終了予定18:00) 入場無料

【会場】京田辺校地 同志社新島記念講堂(女子大学構内)

【お問い合わせ先】京田辺校地キリスト教文化センター

TEL:0774-65-7370

アドベント*讃美礼拝・クリスマス礼拝

*アドベント(Advent)という単語は「到来」を意味するラテン語Adventus(＝アドベントゥス)から来たもので、イエス・キリストの降誕を待ち望む期間のこと(今年は11月30日から12月24日まで)です。

●今出川火曜チャペル・アワー (17:30～) 神学館礼拝堂

アドベント讃美礼拝 12月2日、9日、16日

クリスマス礼拝 12月23日

●今出川水曜チャペル・アワー (10:45～) クラーク・チャペル

アドベント讃美礼拝 12月3日、10日、17日

「第12回京都学生祭典」副実行委員長

「学生力を集結し、京都を盛り上げる活動に貢献」

10月12日に開催された「第12回京都学生祭典」の本祭。台風19号が接近する中、雨天時のプログラムを用意したり、各団体との連絡体制を再確認したり、当日の判断をどうするかなど事前準備に追われました」と言う副実行委員長の吉見智裕さん。幸いにして、当日は台風の影響をまぬがれ、岡崎公園周辺に約10万3千人の参加者を集めた本祭は無事に開催された。

「『京都学生祭典』とは、京都の学生が大学の枠を超えて集まり、経済界、行政、地域、大学の連携を図った上で、学生の力で京都を盛り上げよう、京都の魅力を発信しようというのが活動の理念なので、年間を通じて活動しています。地域の祭りや行政のイベントへの参加、清掃活動のほか、『京炎 そでふれ！』という創作おどりを各地で披露したり、出前教室で指導なども行っています」と吉見さん。

副実行委員長は、実行委員長からの指名によって選出される。その任期は1年。3人の副実行委員長が役割を分担し、吉見さんは広報と営業、さらに全体予算の責任者でもある。事務局でのデスクワークのほか、外部団体との窓口でもあるため、見せてもらったスケジュール帳は会議や打ち合わせの予定でぎっしり。授業と授業の合間に企業を訪問することもあって、大学へはスーツで通っています。たまにスーツ姿じゃないと、ゼミの友

だちに「今日はどうしたん？」と不思議がられるくらい(笑)」。本祭までの1年間は、学生たちの「やりたい」という気持ちと「やれる」とこの間に立つことが多かったと言う。「サークル活動とは異なり、自分たちが発信したいことをただ発信すればいいわけではないので、みんながやりたいもので、かつ外からも求められているものを探し、調整していく必要があります」

全力を注いで望んだ本祭は、言うまでもなく、この1年間の集大成。しかし、「あくまでも長い活動の中の1イベントに過ぎず、当日は、これで終わりじゃないということを忘れないようにしよう」と思っていました。実行委員186人に加えてボランティアの学生326人も参加してくれて、みんながお揃いのTシャツで誘導したりしている姿を見ると、ものすごいパワーを感じました。でも、だからこそ、このパワーをもっと自分が引き出せていたら、より何かできたのではないかと……と悔しさを滲ませるが、それは来年度の実行委員、またその次の実行委員へとバトンを渡し、地域の交流活動に学生が大きな役割を果たしていくことを願っているからだ。

「今、一人では何もできないということを改めて感じています。人のつながりが、どれだけ大きな力を持つのかを感じられたことが、この1年間で一番大きなことでした」。この貴重な経験が、吉見さんの輝かしい未来を支えていくに違いない。

副実行委員長は、実行委員長からの指名によって選出される。その任期は1年。3人の副実行委員長が役割を分担し、吉見さんは広報と営業、さらに全体予算の責任者でもある。事務局でのデスクワークのほか、外部団体との窓口でもあるため、見せてもらったスケジュール帳は会議や打ち合わせの予定でぎっしり。授業と授業の合間に企業を訪問することもあって、大学へはスーツで通っています。たまにスーツ姿じゃないと、ゼミの友

よしみ ともひろ
吉見 智裕さん
「社会学部産業関係学科」3年次生



キャンパスプラザ京都内のオフィスにて